



# JTUC-TOKUSHIMA 連合徳島

vol. 275

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35の1  
徳島県労働福祉会館内  
tel. 088 (655) 4105  
fax. 088 (655) 4113  
E-mail info@tokushima.jtuc-rengo.jp  
http://tokushima.jtuc-rengo.jp/

発行: 日本労働組合総連合会徳島県連合会

編集責任者 島 和 久



### 当面の日程

- ◎ 11月23日(水・祝) 連合徳島女性委員会第28回 中間期総会(ホテルクレメント)
- ◎ 11月28日(月) 連合徳島第28回中間期大会 (阿波観光ホテル)
- ◎ 12月 5日(月) なんでも相談ダイヤル街宣行動 (JR徳島駅前)
- ◎ 12月 6日(火)~7日(水) 全国一斉なんでも相談ダイヤル (連合徳島会議室)

## 人間らしい仕事実現求め 徳島駅前でアピール行動

### ―ディーセントワーク全国一斉行動―



「ディーセントワーク」実現に向けて  
アピールする森本会長

連合徳島は、ディーセントワーク世界行動デー・全国一斉行動を10月7日(金)、JR徳島駅前で開催し、各構成組織約26人が参加し、街頭宣伝・ビラ配りを行った。冒頭、森本会長から「連合を含む162の国と地域の約1億7600万人の労働者が結集する国際労働組合総連合(ILO)は、公正



県民にビラとティッシュを配布

なグローバル化を通じた持続可能な社会をめざして、毎年10月7日を「ディーセントワーク世界行動デー」と定め、世界中で一斉行動を呼びかけている。ディーセントワークとは「働きがいのある人間らしい仕事」。

しかしながら、格差が拡大する我が国の現状を見れば、「ディーセントワーク」が確立され定着しているとは言い難く、今後、より一層の理解と浸透がはかられる必要がある。ぜひ、ディーセントワークの意義と必要性を理解し、その普及と定着にご協力をお願いする。また、徳島県の地域最低賃金については、10月から716円になっている。今年の中央最低賃金の目安額は、過去最高額となるDランク21円の伝達を受け、その後、3回の専門部会が開催され、使用者委員は「賃金改定状況調査第4表に基づいた金額であるべきである」という従来からの主張を繰り返し、公益側が勧める「目安額」での決着に激しく抵

抗した。採決の結果、使用者側委員全員が反対したものの、労働者側委員、公益委員の716円で徳島労働局に答申され、10月1日から効



連合の取り組みと課題を説明する山根木総合同局長

10月29日、労働福祉会館にて第6講座を行ない「連合として大災害に求められる課題」について連合本部組織局山根木総合同局長より説明を受けた。連合が災害ボランティア活動をする理由として、地域に根ざした顔の見える運動をして、ボランティアを組織として支えて仲間同志の活動を通して「絆」を広めていく大切さを知ってもらい、価値ある活動への参加により連合運動の求心力が強化されていくことの意義と、東日本大震災、熊本地震を被災地の映像とともに振り返り、現地で心遣いと、3つの原則として「被災地・被災者に迷惑をかけない」「現地への指示に従う」「安全確保」が大切であると説明を受けた。また、ボランティア終了



各構成組織から21人が参加

つづいて「連合ボランティア実践と課題」について、消防団員・水防団員として、また、応急手当普及員を取得し地元でも活躍している連合本部組織局加藤部長より説明を受けた。テニスボールを使って心肺蘇生の練習を参加者全員で実践した後、自宅近くの商店街でヘルメットやAEDを店内に設置し防災に心がけている防災対策事例を映像で紹介



7人に修了証書交付

介した。また、熊本地震の連合救援ボランティア(第7陣)を映像により当時の被災地状況と活動説明の後、連合ボランティア6つの「すること・しないこと」として、自己完結すること。被災者への気遣いを忘れないこと・思い込みを捨てること・集団行動のルールを守ること・無理をしないこと・抱え込まないこと、を心がけて行動することが大切であると述べた。

力が発生する。」と訴えた。続いて、中小労働対策本部宮本議長、連合徳島板東副事務局長、民進党徳島県連仁木代表からディーセントワーク世界行動デー、クラシノソコアゲ応援団キャンペーンについて述べ、「ディーセントワーク/働きがいのある人間らしい仕事」の実現に向けて各々の立場からアピールした。



小学生による選手宣誓

運動会はパン食い競走や玉入れ、防災グッズ探し、綱引きなど、大人や子どもが共に楽しむ競技が中心に構成され、参加者の笑顔もあふれた。最終競技のチーム対抗リレーでは、子どもだけのチーム編成によるリ

大人と子どもがともに楽しむことのできる競技を多くし、また、スタッフの方々のスムーズな競技運営により、大きなトラブルもなく楽しい運動会となり、家族や組合員同士の親睦・交流を深めることが出来た一日となった。



組合員やその家族で楽しんだ運動会・抽選会

### 連合徳島 3地協

## 合同運動会を開催

### 家族や仲間との絆を深め、明日への活力向上を!

日頃のストレスを少しでも解消するとともに、健康増進を図り、構成組織間、家族や組合員同士の交流を深める目的で、10月23日吉野川河川敷で連合徳島・3地協合同秋の大運動会を開催し、連合徳島組合員とその家族約350人が参加し

た。前日の雨で開催が心配される状況であったが、当日は北風がやや強かったものの、砂埃もなく運動会日和となった。

冒頭、連合徳島森本会長のあいさつ後、小学生男女二人が選手宣誓のあと、競技が始まった。

### ボランティア・サポート・チーム 養成講座

### 大災害に求められた課題

## 7人に修了証書交付

後の連合の取り組みとしては、工場の移転などによる人材の流失も考えた上の雇用対策こそが最大の復興政策であることや、災害はいつ起こるか分らず、他人を助けるためにも、まず自分が生きることと考えて「共助は自助を前提とする」ことを忘れないようにと述べた。

「共助は自助を前提とする」ことを忘れないようにと述べた。

修了式では、森本会長より参加者へ受講修了証が手渡され、起こり得る災害での被害を少しでも軽減できるように活躍していただきたいと述べた。

連合徳島は今後も、南海トラフ地震などの災害に備えボランティア・サポート養成講座を継続実施していく。

# NPO法人徳島労働安全衛生センター 徳島県中小労働対策本部

## 育児・介護休業法改正 「パワーハラスメント」について合同学習

10月11日(火)労働福祉会館502号室で、NPO法人徳島労働安全衛生センター・徳島県中小労働対策本部の合同研修会を開き31人が参加した。



労安センター新居理事長あいさつ

労働安全衛生センター新居理事長から「当センターは、徳島県で働く勤労者の皆さんの安全・安心な職場づくりを目的としている。衛生管理者養成講座では、長年にわたり多くの第一種安全衛生管理者を養成し各職場で活躍している。本日は、「育児・介護休業法改正」「パワーハラスメント」について徳島県社会保険労務士会会長長米澤和美先生から講演いただく。この講演をそれぞれ職場で活かしてもらえれば、研修会の目的が果たせるのではないかと思う。」

とあいさつ。

講演では、「2017年1月1日から『育児・介護休業法が改正される』ポイントは、介護をしながら働く方や、有期契約労働者の方が介護休業・育児休業を取れやすくなるよう改正される。続いて『職場のパワーハラスメント』については、同じ職場で働く者に対して職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・肉体的苦痛を与える又は職場環境を悪化させる行為である。実際



合同研修会には31人が参加

の相談事例から、まずは、未然防止のための対策が重要。起きてしまった場合は、本当の解決とは何かを探る。さらに、メンタルヘルス問題は、中小企業にとっては従業員の突然の退職・退職による事業への影響など経営を大きく揺るがしかねないリスクとして捉える必要がある。」と説明があり、参加者2名からの質疑応答を受け、徳島県中小労働対策本部宮本議長のもと、閉会のあいさつで合同研修会を終えた。

### 反差別研修

## 沖縄差別と歴史の現状学習

第37回部落解放・人権徳島地方研究会実行委員会主催の反差別研修が11月3日～5日の3日間沖縄県那覇市他で行われ20人が参加した。

1日目は、連合沖縄会議室において大城連合沖縄会長が「沖縄差別と歴史の現状について」と題して講演をいただいた。沖縄には被差別部落はないが差別を受ける者の痛みは共有できる。お互いの共闘が結びついて権力に対抗していく必要がある。米国の軍事支配から日本の経済支配へ、そして現在基地問題に揺れる沖縄



各団体から20人が参加

2日目はフィールドワークで南部戦跡を回った。沖縄タイムスの与儀記者同行のもと、宜野湾市嘉数台、シユガーローフ、首里32軍司令部壕、ひめゆりの塔、魂魄の塔平和記念資料館を廻り、沖縄戦の悲惨さを目の当たり

にした。なお、詳細報告については、来年2月16日に開催される第37回部落解放・人権地方研究会にて国公認連全農林国見委員長が発表する予定となっている。

## オルガナイザー研修会 高松で開催

### 四国ブロック

10月24日(月)・25日(火)連合四国ブロック・オルガナイザー研修会はオークラホテル高松で開催し、四国ブロックから39人が参加した。

研修会は、連合本部総合組織局縫部部長の司会進行



四国ブロック代表して連合香川進藤会長あいさつ

ではじまり、冒頭、連合四国ブロックを代表して連合香川進藤会長から「連合評価委員会の報告をふまえ、組織拡大が必要であり、四国の代表者がそれぞれの状況、活動の展開等の意見交換をしながら今後有効な活動が出来る様な研修会になることを期待する」とあいさつ。

続いて、本部提起として「1000万連合に向けた組織拡大の取り組み」連合本部組織拡大・組織対策局加藤部長が「労働組合を取り巻く雇用情勢と組織拡大の取り組みについて」として説明。事例報告では、連合香川藤井アドバイザーと連合徳島田北副事務局長より、それぞれ2つの組織化事例について報告された。次に、事例報告を踏まえたグループ



グループ討論・発表の様子

### 県内集會 市民集會

## 闘争勝利に向け意思統一

### 狭山事件再審を求める県内集會

10月28日労働福祉会館別館5Fホールで約150名が集まり、狭山県内集會が開催された。主催者を代表して富永共闘会議副議長より「弁護団は8月22日に証拠の万年筆が被害者のものではないことを科学的に明らかにした下山鑑定を提出した。石川さんも一刻も早く再審されるよう共闘会議は一丸となって運動を展開していく」とあいさつした。また、部落解放同盟から爾染山書記長、民進党から仁木代表、社民党から前川代表がそれぞれ連帯あ



各団体から150人が参加



木村弁護士が情勢と課題を説明

いさつをした。つづいて、「狭山事件を考える徳島の会」代表の木村弁護士から、狭山事件を取り巻く情勢と課題、と題して講演。東京高裁・東京高検・弁護団の3者協議が29回にもわたって行われたことや万年筆についても詳しく説明した上で、「下山鑑定は画期的なことであり、粘り強い闘いの成果ですが、さらに証拠開示を求める世論を一層大きくしていくことが重要だ。」と締めくくった。青年共闘から石川さんの

組合結成の際の注意点、公務ならではの労使関係について説明を受け1日目を終了した。2日目は、グループ討論「自分がオルガナイザーだったら」と題して、加藤部長の進行で、組織化事例について「自分がオルガナイザーだったら」と仮定してグループ討論・発表を行った。グループ討論は活発に行われ、発表では、組合結成に向けて「相談者のニーズを十分把握すべき」「正社員を含めて過半数をめざすべき」等々の意見が出された。駒井中央アドバイザーからは、組合結成のタイミング、交渉で確認すべきこと、公然化の判断、組織化のターゲットについてアドバイザーをした。その後、加藤部長が2日間のプログラムをスライドで振り返った。最後に、連合四国ブロックを代表して、連合徳島島事務局長が「多くの組織化に関わる情報を得ることができた研修だったのではないかと組合をつくるというのは容易ではないが、2日間で学んだことを日々の活動や組織化の実践に活かしていきたい」と研修会を締めくくった。